

1. 2022年度事業目標と年度末事業結果

2022 年度目標	2022 年度事業報告
重点目標	
① 横浜市直営から民間運営となる初年度であるため、利用者、家族ともに安心して通所ができる運営を目指します。 ② 事業所運営に係る訓練等給付費並びに生産活動の適正な請求、工賃の支払いや事務費・事業費の適正な執行、個別支援計画の作成と日々の記録の整備など、コンプライアンスに沿った事業所運営を行います。	① 戸塚福祉授産所から引き継いだ利用者は、概ね継続して通所することができています。通所不安定の利用者 1 名を他機関へ繋ぎました。 ② 延べ 211 件の個別支援計画等未交付事案が発生しました。コンプライアンスに沿った事業所運営を第一指針とし、次年度以降取り組んでまいります。
1. 就労継続支援 B 型事業（定員 30 名）	
① 戸塚福祉授産所から引き継いだ利用者が安心して通所できるよう精神状態や健康状態を把握し、また、保護者会とも連携して必要に応じたフォローを行います。 ② 作業室の環境を整え作業プログラムが効率的に実施できるよう作業工程や治工具を整えて行きます。 ③ 現在 16,000 円である平均工賃を 20,000 円の支給が目指せるよう既存の作業だけではなく新たな作業も開拓します。 ④ 利用者からの要望を取り入れた余暇活動を行います。また、高齢の利用者が多くいるため、健康維持を意識できるプログラムも実施します。 ⑤ 新規利用者を受入れるため、戸塚区周辺の相談支援事業所、就労支援センター、特別支援学校と連携し、営業活動を行います。	① 一日あたりの平均利用者数は 21.1 名でした。個別面談、保護者会、施設通信の発行等を通じて、利用者・保護者・関係機関支援者の安心に繋がるよう努めました。 ② 利用者個別の身体状況、作業性に応じた環境整備や、大量受注に備えた作業室配置に努めました。 ③ 平均工賃月額 16,806 円でした。工賃向上に向け、受注作業の見直しを行い、2 件の新規取引先を獲得しました。 ④ 利用者自治会（みどり会）で意見を聞き、夏祭りや年末納会を実施しました。集団健康診断を実施し、健康状態把握に努めました。 ⑤ 特別支援学校、基幹相談支援センター、就労支援センターから 3 名の新規利用者を受け入れました。
2. 運営全体	
① 作業室並びに施設外実習における災害ゼロと安全衛生活動の推進を図ります。 ② 利用者の尊厳を守るため、日々の支援のあり方を振り返るとともに、職員の人権意識を高め、適切な利用者処遇ができるように努めます。また、虐待防止や身体拘束適正化等に関する研修の実施や責任者の配置を適切に行い、法令を遵守した、質の高いサービス提供を目指します。 ③ 支援技術の向上を図るため、部署内研修の実施、外部研修への受講を積極的に進めます。	① 異物混入による不良品事故が 1 件発生しました。安全衛生活動は、次年度以降、積極的に取り組みます。 ② 個別支援計画等未交付事案が発生しているため、次年度以降は、コンプライアンスに沿った利用者処遇に努めます。虐待防止に向け、研修動画を用いて職員間の意識向上に努めました。 ③ 部署内研修、外部研修の受講はできませんでした。次年度以降、積極的に取り組みます。

2. 2023年度事業計画

重点目標	① 昨年度の利用者処遇における文書の不適切処理を受け、施設内のコンプライアンス対策を最重要課題と捉え、利用者処遇に留まらず、職員処遇、外部事業者との取引等の総点検を行い、改善をします。
1. 就労継続支援B型事業（定員30名）	① 月平均工賃16,000円以上を確保し、さらに高工賃を支給できるよう、既存作業の受注や単価の見直しや新規作業の営業活動、作業工程の見直しを行います。 ② 契約者数28名、一日当たりの平均利用者数22名以上を目指します。 ③ 高年齢利用者でも楽しめる行事を開催し、余暇活動の取組みを図ります。 ④ 地域の関係機関や特別支援学校からの実習を受け入れ、新規利用者を徐々に増やしていきます。
2. 運営全体	① 利用者処遇におけるコンプライアンス遵守を徹底するため、サービス管理責任者の役割を明確にし、個別支援計画の立案やモニタリングの実施、その書類交付に関してダブルチェックできる体制づくりを構築します。また、虐待防止や身体拘束適正化等に関する研修の実施や責任者の配置を適切に行い、利用者が安心して利用できる施設づくりを目指します。 ② 作業活動におけるコンプライアンス遵守を徹底するため、内部統制を強化し、外部事業者と適正な契約・作業工程等の総点検を実施し、適正な取引をします。また、新たなインボイス制度導入に伴い、その制度の把握に努めるとともに、適正な対応をします。 ③ 職員処遇におけるコンプライアンス遵守を徹底するため、管理職が労働法や職員処遇に関する研修に参加し、その理解を深め、職員が働きやすい職場を目指します。また、職員が適切な利用者処遇ができる研修を計画的に実施します。 ④ 部署内でのコミュニケーションを活性化し情報共有の密度を上げていきます。また、法人と協議しながら組織を超えた相談しやすい仕組みづくりを構築し、職員を積極的に参画できるようにします。 ⑤ 法人の安全衛生組織に参画し、災害ゼロを目指し安全衛生活動の推進を図ります。

3. 2022年度事業報告

(1) 概況

① 利用者の推移（全体の平均通所率83.2%）

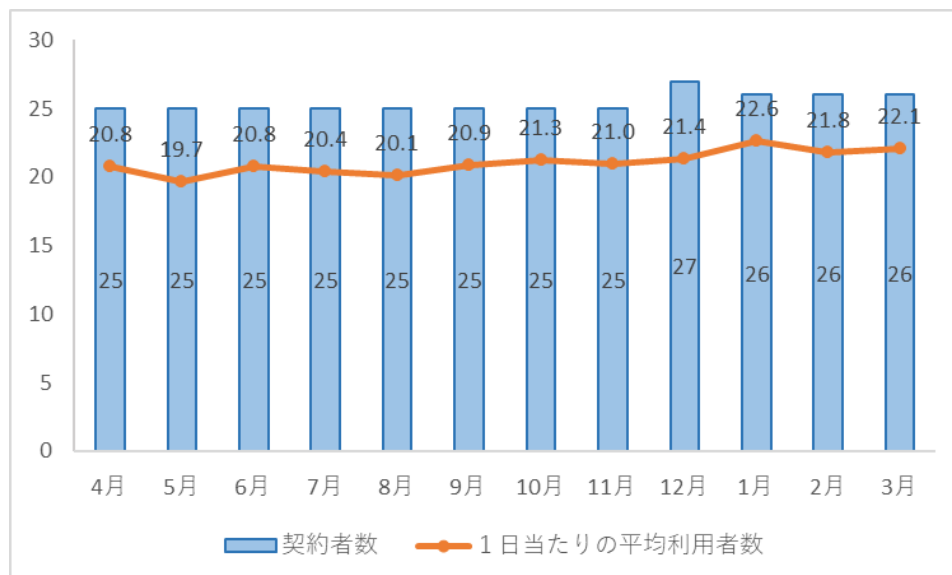


図1. 月別契約者数と1日当たりの平均利用者数（利用延べ人数÷開所日数、単位：人）

② 利用者状況（2023年3月31日現在）

利 用 者 数	26 名
性 別	男性：20 名（77%） 女性：6 名（23%）
年 齢	19 歳～72 歳（平均年齢：50 歳）
居 住 形 態	家族と同居：18 名 グループホーム：6 名 単身：2 名
居 住 地	戸塚：13 名 栄：5 名 泉：5 名 旭：1 名 港南：1 名 金沢：1 名
計画相談利用者	4 名（15%）

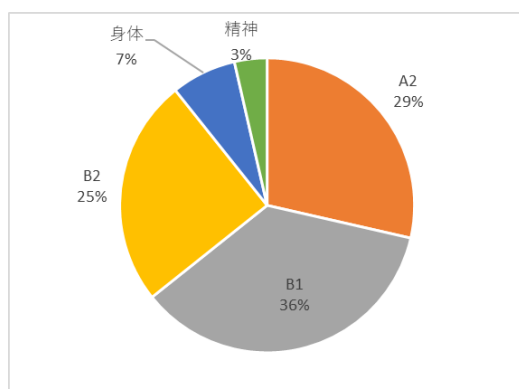


図2. 障害程度

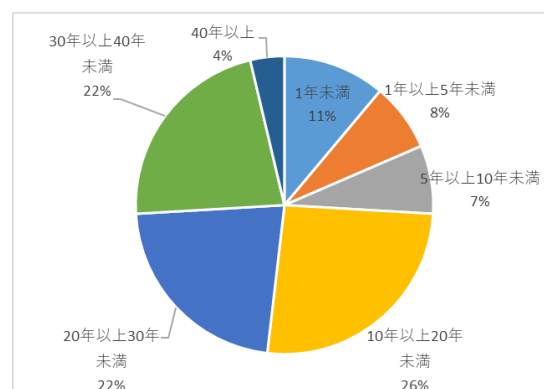


図3. 利用期間

(2) 生産活動収入と工賃

2022 年度の実産活動収入（作業の売り上げ）は、5,741,786 円だった。旧戸塚福祉授産所より移管した年度当初こそ振るわなかったが、その後、単価の見直しや作業種の見直しを行い、菓子化粧箱折りやドリップコーヒーの梱包など新たな作業種も取り入れながら、下半期は毎月 500,000 万円以上の収入を維持した。生産活動における経費も考慮しながら、工賃支払い総額も大きく向上した。2022 年度の平均工賃月額額は 16,806 円となった。

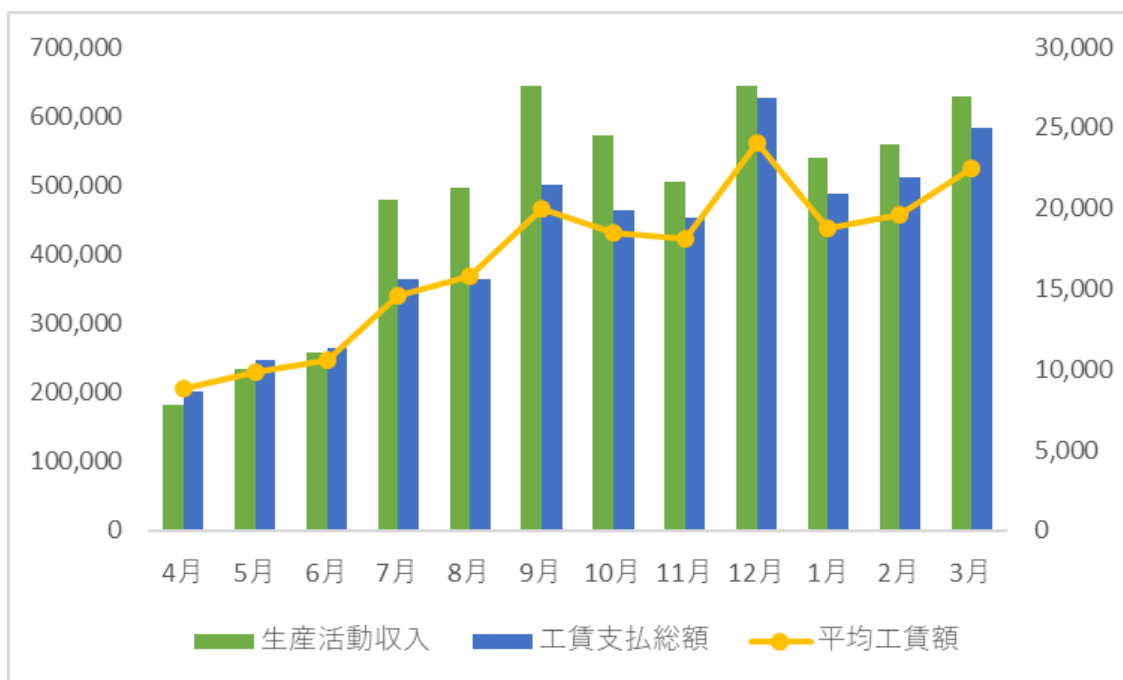


図 4. 2022 年度生産活動収入と工賃支払総額、平均工賃額（月別、単位：円）

(3) 戸塚はなえみ工房 1 年目を振り返って

2023 年 3 月 30 日に、食堂にて「バトンをつなぐ会」が開かれ、旧戸塚福祉授産所の職員の方々から、社会福祉法人電機神奈川福祉センター戸塚はなえみ工房の職員がそのバトンを受け取った。大きな期待と不安を胸に 2023 年 4 月 1 日より戸塚はなえみ工房としてのスタートを切った。

ご利用者やご家族、支援者の方々にとっては変化が大きく、多くのご不安を抱えていただろうと推測されるが、戸塚はなえみ工房としての日々の作業活動、面談、行事などを通して多くのご理解をいただき、少しずつ信頼関係を築くことができてきたのではと考える。結果として、旧戸塚福祉授産所時代からのご利用者（通所困難者 1 名を除く）は概ね安定して通所継続できており、また、新たに 3 名の新規ご利用者を迎えることができた。

そのような中、2022 年秋に個別支援計画未作成事案が発生し、更なるご心配とご不安を与えてしまったことが痛恨の極みである。法人一同、この一件を猛省し、改めてコンプライアンスに沿った適切な運営管理とともに、戸塚はなえみ工房として、一人一人のご利用者に寄り添い、最善・最適な幸福の提供が成し遂げられるよう努力を重ねていきたい。